

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
69

2020 弥生・卯月

特集／師家承継式

開祖からの法統をつなぐ



特集

師家承継式

開祖からの法統をつなぐ

宗昂馬第三世師家が「金剛禪運動の先頭に立つ」と宣言し、少林寺拳法師家を承継されました。その様子をお伝えするとともに、第三世師家が就任の挨拶で述べられた言葉を抜粋し、ご紹介いたします。その言葉一つ一つは、私たち門信徒が自身の血肉として備えていなければいけないことです。今一度、これらの言葉を噛み締め、脚下照顧し、さらに金剛禪運動を推し進めていきましょう。

師家承継式が厳粛に執り行われた



宗由貴第二世師家が40年にわたり守ってきた法統を、宗昂馬第三世師家が承継されました。

宗由貴前師家におかれては、ご自身が開祖より承継されたとき22歳の若さであり、かつ急な出来事であったため、想像を絶するご苦勞があったと伺っています。そのため、第三世への承継に際しては、ご自身の経験や知識、つながりを、次世代にしっかり伝えることができるよう、また、少林寺拳法グループ内に混乱が生じたり、最前線で努力している道院長を不安な気持ち

次第

- 一、開式の辞
- 二、導師献香
- 三、表白文奉読
- 四、第二世師家献香
- 五、法具承継
- 六、第三世師家献香
- 七、演武奉納
- 八、門信徒代表誓願
- 九、師家就任挨拶
- 十、閉式の辞

にさせてはならないとの配慮から、承継をご決断されました。

そして1月12日、承継式が、1500名を超える道院長をはじめとする参列者が見守る中、厳粛に執り行われました。



表 白文奉読では、大澤隆管長

が、開祖から始まる少林寺拳法の法統の由来を振り返り、第二世師家の功績を讃え、第三世師家が少林寺拳法創始の志をつなぎ、広く世のために尽くされるよう、本尊達磨大師の前で願われました。

法具承継では、開祖より受け継がれている絡子、念珠、霊符、師家印が、第二世師家より第三世師家へと、一つずつ香で清められ、

手渡されました。

演武奉納では、岡崎中部道院・伊藤和明中拳士三段と伊藤歩准拳士初段による親子演武、さらに志村力准範士七段と永安正樹准範士七段による演武が奉納されました。

門信徒代表誓願では、鈴鹿成正・少法師正範士八段が、『人づくりによる平和で豊かな社会づくり』を目指す金剛禅運動は正しく継承され発展してきたが、社会に



目を向ける
とさまざまな問題があり、今まで以上に人々の生きる力を励まし、サポートする運動が求められている。また、道院は、地域に根ざす貴重な存在であり続けなければならない。門

師家就任挨拶

信徒一同は、師家を変わず精神的支柱と仰ぎ、自らの修行に精進し、誇りを持ってこの運動に邁進する」と、第三世師家に誓われました。

師家は就任挨拶で、以下のように決意を述べられ挨拶とされました。

「国や言葉を超えた人の質や、人と人の理解が生み出す力、その交わりが生み出すものに、開祖がなさろうとした理想境建設の可能性を見ました」と、自身の若いころの体験を振り返られ、

「人は皆、ダーマの分身とし



て、可能性の種子を持って、誰もが幸せを求め、そして輝こうとして生きている。その思いに、その願いに答える力が少林寺拳法にはある。金剛禅にはある。開祖のDNAとは、その価値を創造し続ける力である」と師家の役割を言い表されました。そして、

「開祖がさまざまに腐心され、あとを継がれた第二世が、心を砕いて手がけてこられたその道のりは決して平坦なものではない」とし、

「開祖と第二世からバトンを託された今、私の胸の中には大きな勇気が湧いております。それは開祖の創始されたこの人づくりの道



こそが、人々に生きる力と勇気をもたらし、社会に希望と幸せをもたらす確かな運動であると確信する多くの同志やその理解者が、日本全国で、そして世界40か国で、今も力を尽くしておられることを、私は肌で実感してきたからです」と、承継にあたっての思いを語られました。また、

「少林寺拳法は、武道やスポーツとしての普及が目的ではありません。金剛禅宗門の行であり、優れた人づくりの手段であるという、この認識を基本にして、これからの社会に必要な少林寺拳法であるために、時には視点を変え



て、これを大事に生かしていくために、私は師家として、常に社会に役立つ人づくりを目的とした、開祖の志を正しく伝えてまいります」と決意を述べられました。そして、

「共に、この道を歩んでいかれる方々の期待に応えられるよう、常に、自らの却下を照顧し、グループにおける最高の権能者として、この門に集うすべての人々の精神的支柱となれるよう、精進して参ります」

「祖師、先師の御前において、身を賭してこの道を守り、その発展に尽くすことを、ここにお約束い

たします」と締めくくられました。宗昂馬少林寺拳法第三世師家の決意は、門信徒一同が、同じく決意として持たなければなりません。またそれは、開祖の志そのものであり、特に、道院長はじめ道院の幹部は、自身のこととして受け止めるべきものです。第三世師家を支えていくというこの第一歩は、ここにあります。

師家承継の慶^よき日、今一度、なぜ自分は少林寺拳法を行じるのか、金剛禅門信徒としての思いと行動はどうあるべきかということに思いを致し、皆で協力し、金剛禅教団を発展させていきましょう。



祝宴

本山における師家承継式の後、場所をオークラホテル丸亀に移し、祝宴が開催されました。法縁者を中心に、200名を超えるご来賓に臨席を賜りました。広く社会に対しても、開祖の目指した“平和で豊かな社会づくり”を承継することを伝え、社会に貢献する少林寺拳法の運動を期待し応援する言葉を、皆様から頂きました。





開祖語録 ダイジェスト

1973年10月
指導者特別講習会



スタートから、技の切り売りで名利を求める、そうした生き方を私は否定してきました。そして自分の体験を通して、「このままではいけない」と考え至ったことを、思うだけではなく実行しようと少林寺拳法を始めた。

日本人は、他の民族よりも優れている、偉いだなんていうバカなうぬぼれ。死んでも国や天皇、上にだけ忠を尽くすことをよしとする人間教育。縦にしか結束できない、横のつながりや団結が持てない人間関係……。そうした、これまでの日本、日本人のあり方を、私なりの方法で、少しずつでもいいから変えていきたい。日本人同士だけじゃない、いろんな国の人たちと仲よく生きていける社会をつくりたい。

言葉を換え、それぞれに近づけと言うなら、「己自身をまず対象にした人間改造」、これですね。しかも、人によって人生の転機は異なるから、それが何であれ、きっかけ、つまり自分を変えていこうとするときに必要となる手がかかり、とっかかりは、各人各様、何であっていいと私は思っている。

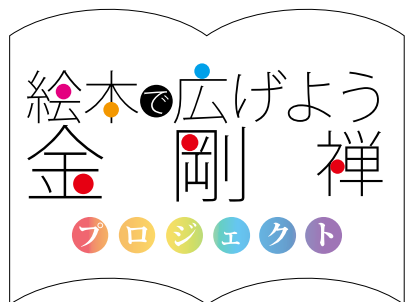
「己自身をまず対象にした人間改造」、 これですね

例えばうちの、互いに合掌し、手を握り合い始める練習の形。手を握り合ったり抱き合ったりは、普通は知り合い仲よくなるうの意思表示です。また、より深い意味を込めて言うなら、時には相互理解や協力、和解の印ともなりうる、意義ある行為でもある。

だったら、単なる習慣、しらすらしい一動作にしてしまうのではなく、こうした行為の持つ価値を、折に触れ、振り返り考えてしかなるべきだよな。

己と他との関係、われも存在するが、われ以外の、自分とはさまざまに違った他も存在するという、この分かったようですすぐ忘れてしまう人間社会の事実を認識していく。しかも、自他共衆の存在・関係を認識する中で、自分のことだけでなく、せめて半分は他人の気持ちやら幸せを考えられる人間に、みずから変えていく。

これが、私たちの在り方だし、私との出会いが、そうした自己変革への一つの契機になってくれればいいということです。



大阪福島道院
道院長 吉野有紀

るようになります。道院に、言葉で仲間を傷つけてしまう子がいたのですが、それを知った保護者の方が、オリジナルの紙芝居を作ってくださいました。その紙芝居を聞いた後、子どもの問題行動が止まりました。私がどんなに話しても伝わらなかったことが、紙芝居だと子どもたちに簡単に受け入れられることを知りました。また、泣きながら道院に来ていた4歳の子が、絵本の読み聞かせをすることで、笑顔で来てくれるようになりました。私は今、絵本や紙芝居の力を強く実感しています。

絵本の力を強く実感

「道場ですることか!? 家ですることでしょ」。これが、絵本プロジェクトを知ったときの最初の感想でした。しかし、子どもたちのためになることなら何でもやってみたいと思い、絵本を読むようになりました。読むときの照れや恥ずかしさを乗り越えたとき、気づいたことがありました。それは、私がどんなに熱い思いを語っても、たった一冊の絵本にはかなわないということです。絵本には、そのときの状況や気持ちを考える場面があり、想像をすることができます。想像することは、良好な人間関係を築くためにとても大切なことです。想像することで、人の気持ちを推し量ることができ

今回読んだ絵本

◎うんこ！

作者：サトシン
絵：西村敏雄
出版社：文溪堂



わんこのおしりから、地上に落とされたうんこくん……。ねずみもへびも、みんな「くっさーい！」と逃げていきます。さあ、うんこくんはどうする？ うんこくん一世一代の冒険がはじまります。(文溪堂ウェブサイトより引用)

踏んでいるのが分かるかい

アンヨは、中学2年生の春に転校してきた。

話の最初に「あんのー」と言うので、いつの間にか「アンヨ」とみんなが呼ぶようになった。朝は途中で一緒になり、二人で登校した。帰りは別々。僕は部活、彼は一人で帰った。何を話していたのか覚えてるのは、九州の炭鉱から来たということ。アンヨは僕のことを「ソース」と呼んでいたこと。いつも、にこにこしていたこと。時々授業中思わぬ質問をするので、先生が戸惑っていて、その様子をみんなが笑ったこと。

アンヨの片方の胸は不思議に引っ込んでいた。小さいときに踏まれたからで、「痛かった」と言っていた。そして、ぼそっと、「踏んだほうは覚えてはいないだろうけれど」とも。

秋の遠足が終わって、転校していった。僕たち子どもには分からない家の事情で。1960年代前半のころの出来事だった。

踏まれた人の痛みは、踏む人には分からない。だからせめて、自分がされて嫌だと思いうことはしない。それを「白銀律」といい、してもらいたいことを他人にしてあげる、それがどこの社会でも共通の倫理的規範であり、それを「黄金律」というのだということを、「大人」から教えてもらった。

高校生になって、1960年ごろの日本のことを少し知った。

高校時代、同級生にトクサンと呼ばれる友達がいた。頭がよくて、見るからに人のよさそうなやつだった。ある日、家に来ないかと誘われて行った。密集した家が並ぶ中の平屋の家で、間口の狭い家だった。高校を出たらどうするかという話になって、トクサンは「医者になる。俺は在日だから医者を目指す。この国では医者だけが差別がないから」といった。そのことが本当か違っていいのかは分からなかったが、そのとき初めて、彼に日本国籍というものがないことの問題を知った。自分の生きている社会が、自分の「責任」とは思ってもいない歴史の上にか成り立っていないことを知った。僕は、トクサンの足を踏んではないかと思っていたが、日本人の僕の生きる社会が、彼の足を踏んでいるかもしれないということ。そして、踏まれている人が、ほかの人を踏んでいるという社会構造の複雑さを。

「世の中にはいろんな問題がある。自分の生きている社会の問題を冷静に受け止め考えることは大切だ。社会のことを勉強しろ。上っ面の知識や自分の感情、世間の雰囲気で判断しない

ために知識は必要だ。踏まれている人に対する同情も人として大切だ。優しさや善良さは人間としての美徳だ。しかし、他人^{ひと}事のような薄っぺらな同情心や、何か手助けをしてやろうなんて高みの立場で恩着せがましいことは、相手にとってもありがた迷惑だろう。自分の場で、自分のすべき問題に対して責任を持ってやったらどうだ」と「大人」が諭してくれた。その時十七歳だった。

「大人」は「子ども」に、より人らしく生きることができる社会を引き渡す責任がある。物質的な環境は言うまでもなく、精神的な環境も。人らしい豊かな生き方というのはどういうものなのかを、社会に残していかなければならない。

今、この国は、正直であることで馬鹿^{ばか}を見ない社会だろうか。弱い者に手を差し伸べて、共に生きることが当たり前になっているだろうか。自分の行いの社会的責任を、正面から受け止めた働き方をしているだろうか。そうあるべきと「大人」が言っている倫理観が、大人の手で壊されていくかと思える時代、倫理観の基盤となる私利私欲をそぎ落とした人の霊性を問い、修行すること、その場を守ろうとすることに意義があると、69歳の今、思う。

わたし^の 工夫

第15回

道院運営へのヒント・・・
もって道院の活性化、拳士の
育成につなげていこうという
コラムです。

今回の工夫を
教えてくれたのは・・・



岐阜県・岐阜可児道院
はしもとかずし
橋本和志 道院長

工夫¹ みんなの前ではいつも「笑顔」で立つ



「きょうも道院に来てよかったな」と感じてもらいたい。そのためには、私自身がいつも笑顔でいるようにしていたい。以前、ある別の理由でこわばった表情のまま、皆の前に立ってしまったんです。そうしたら、私の表情を敏感に感じ取った子が、「きょうは先生、いつもと違うから注意して……」と、小声でほかの子に話しかけているのが聞こえてきたんです。「あっ、しまった!」と思いましたね。

私の表情がこわばったままだと、みんなの心もこわばらせてしまう。そんな道院なんて、居心地が悪くて、来たくなくなりますよね。だから、みんなの前ではいつも笑顔でいようと。そうしたらみんなも笑顔になって、笑顔の絶えない道院になる。

「和顔施」といいますが、笑顔でいると、自然とみんなも笑顔になるんですね。

工夫² 行事には全員参加

道院活性化の工夫の二つ目が、「行事の最大活用」です。それはつまり、行事に全員参加することです。少林寺拳法では、大小さまざま行事が年間で計画されています。これらの行事に、「全員参加」という方針で臨みます。すると、一人一人が自分たちの目標を立てて、主体的に取り組むようになるんです。人は、目標が定まると主体的になりますよね。さらにおまけですが、行事を「もっと」楽しめるよう、私なりにプラスαのオプションを企画するんです。すると、行事への準備にも力が入りますし、行事が来るのが待ち遠しくなります。

このように、行事というのは単にあるんじゃない、修行の活性化のためにあるんだと。だからこそ、行事を最大活用する。全員で取り組む。目標を持つ。オプションも楽しめる。このセットが、道院活性化の工夫です。



担当／飯野貴嗣

道院長

vol.51

元気^の素

岩手県・盛岡北道院
道院長 もりおかきた おばらたくひさ 小原巧久(43歳)

思い立ったが吉日

20代前半のころ、日本少林寺武道専門学校・本校(当時)で2年間学んだことで、40代には道院を出したいと常々考えていました。しかし、2011(平成23)年の東日本大震災を経験し、「人間、いづとうなるか分からない。やりたいことを先延ばしにせず、今すぐやろう」と決心し、2012年に36歳で道院を設立しました。

道院長の交代ではなく、道院を新しく設立したため、修練場所の確保から門信徒を集めることまで、すべて一からのスタートであり、苦勞もありましたが、周囲や家族、特に家内の理解と協力のおかげで、何とか軌道に乗せることができました。

また、数年前からは、少林寺拳法の行事や各種大会があります。すると最近、娘は少林寺拳法の行事があるときは、どこか旅行に行けると思っており、少林寺拳法の行事を

楽しみにしているようです。

道院の指導方針は、口先だけでなく、みずからが率先して動き、汗をかくようにしています。具体的には、法形や演武を指導する際には必ず示範をする。トレーニングをする場合には、門信徒より多くの回数をこなすようにしています。

全国各地にいる仲間との再会が励み

日本少林寺武道専門学校で学んだ仲間が全国各地におり、本山の講習会や研修会、また(二財)少林寺拳法連盟主催の全国大会などで再会することが、楽しみの一つになっています。20代や30代前半のころに仲間と再会したときには自分自身の話ばかりでしたが、最近ではもっぱら門信徒の成長や道院運営、また指導法についての話題が中心です。

その中でも、「いかに大人まで継続させることができるか」が、いちばん大きな課題です。なぜなら、長く継続しなければ、金剛禅の魅力を正しく、そして深く伝えることが難しいと感じているからです。しかし現状は、子どものころに入門しても、中学、高校、大学、それぞれの節目で離れていく門信徒が必ずおり、この現状をいかに乗り越えるか、継続しやすい環境をいかにつくるかが喫緊の課題です。

20代のころ、共に本山の道場で汗を流した仲間が、今では多くの門信徒を抱えるようになり、このような道院運営の課題について

語り合えることは、お互いが人間としても成長していると実感できる瞬間です。また、お互いの門信徒同士が交流する姿を見ると、とても感慨深いものがあります。そして、共に学んだ仲間が全国各地で頑張っている姿に、私自身、勇気づけられています。

道院長になろうかと少しでも考えておられる方には、「やりたいことを先延ばしにせず、勇気を持って行動に移しましょう！そして、金剛禅のすばらしさを後世に伝えるために、共に頑張りましょう！」と、声を大にして言いたいのです。



※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

開催報告

● 本山公認教区講習会(派遣講師)

〔11月10日〕栃木県教区(鈴木裕)
愛媛県教区(近藤悦郎)

〔11月24日〕東京都教区(片岡三郎・沖山聖徳)

● 教区研修会

〔8月25日〕山梨県教区

〔11月3日〕富山県教区

〔11月17日〕神奈川県教区

〔12月8日〕岐阜県教区、奈良県教区、広島県教区

● 小教区研修会

〔5月12日〕神奈川県横浜第三小教区

〔9月22日〕神奈川県横浜第三小教区

〔10月6日〕神奈川県横浜第三小教区

〔11月3日〕奈良市北部小教区、京都東小教区

〔11月6日〕山形県庄内小教区

〔11月16日〕東京第一小教区

〔11月17日〕山形県村山小教区

〔11月30日〕栃木県南部小教区

〔12月1日〕埼玉第十小教区、岩手県南小教区

〔12月8日〕静岡伊豆小教区

〔12月15日〕東京第十五小教区

〔12月15日〕東京第十五小教区

〔12月15日〕東京第十五小教区

〔12月15日〕東京第十五小教区

〔12月15日〕東京第十五小教区

〔12月15日〕東京第十五小教区

〔12月15日〕東京第十五小教区

〔12月15日〕東京第十五小教区

となることを目指し、小教区で達磨祭を開催しました。



アトラクションとして、絵本の読み聞かせ、ゲーム、健康プログラムも実施し、門信徒の交流を深め、一般の方にも金剛禅を布教し理解を深めていただく一助にもなりました。

岩手県教区

未来へつなごう
東北連合会 in いわて

東北六県では年に一度、所属長・幹部拳士が一堂に会する「東北連合会」を実施しています。

今年度は2019年11月9日に、岩手県が幹事を務め、盛岡市に100名以上が集まり、盛大に開催しました。

岩手県では、拳士の減少が進む中、県内の各道院・支部の拳士を「集める」「育てる」取り組みを整理するとともに、

東京西品川道院など他地区の先進的な取り組みについてお聞きし、拳士増加に向



けて、県内道院間で連携を図っていくことを確認しました。また、力を合わせて拳士を増やし、活動を活性化させていくために、「東北大会」の共同開催を呼びかけました。

参加された先生方からは、「東北大会は大賛成」「拳士減少は同じ課題。正面から取り組みたい」など、ご賛同の声を多数いただきました。

岩手のみならず東北全体で、未来につながる取り組みを一步步進めていきたいと考えています。

(東北連合会 in いわて実行委員会・小岩裕基)

刈谷北道院

第3回刈谷北道院

演武祭開催

11月10日、暖かな秋晴れの

下、「第3回刈谷北道院演武祭」を開催いたしました。多くの保護者、関係者、地域住民の皆さんをはじめ、ふだんの活動を支援してくださっている泉田地区

地区長・公民館長のお二人を来賓としてお招きし、また同じ愛

知西三河第三小教区の刈谷南道

院から、長谷川拳士・外山拳士

に賛助出演していただき、激し

くも凛々しい演武の数々が繰り

広げられました。

終了後は、ささやかながら「お茶会」を催し、親睦・交流



も深められ、多くの人たちの関わりと支えによって成り立つ、金剛禅運動の拠点としての空間を、さらに発展させていこうという思いを共有でき、貴重な場となりました。

水戸葵道院

水戸葵道院設立

50周年記念祝賀会

11月17日、金剛禅総本山少林寺水戸葵道院設立50周年記念祝賀会を開催いたしました。

幡谷公朗茨城県少林寺拳法連盟会長、岡田広同顧問ほか法縁の関東近県の先生方、県内の道院長・支部長そして道院に関わりのある拳士などの皆様に越えいただき、総数

146名の盛大な祝賀会となりました。懇親

の中で、現道院長が、50年の歩みを映像を通して説明を



しながら振り返りました。最後に、四代にわたって継続されてきた水戸葵道院が、今後も少林寺拳法の教えを地域社会に、心と心のつながりの法縁を大切にしながら邁進していくことを誓い、道院の1期生が壇上に上がり、万歳三唱で幕を閉じました。

山口県教区

新春法会開催

2020年1月18日、山口

市・山口グランドホテルにおいて、山口県教区新春法会が執り行われました。

「門信徒代表挨拶」は、最若手の鈴木道臣宇部恩田道院道院長が行い、「新しい宗昂馬少林寺拳法師家に続き、道院長・門信徒皆でワンチームになって、この金剛禅運動(幸福運動)に邁進していきます」と宣誓しました。

古屋議県教区長の「年頭挨拶」では、「被害者もつくりたくない、加害者もつくりたくない、広い慈愛の心を持って、門信徒教化育成に当たろう。そのための自己研

鑽に、怠らず努めよう」と呼びかけました。

(山口県教区長・古屋議)



九段特別昇格者

2019年12月15日付



今城 隆廣(奈良中央道院)



高山 恒一(生駒道院)

2019年12月21日付



堤 清彰(京都翔英高等学校)

2020年1月度 認証

● 参与道院長

2020年1月1日付

町田南道院 村瀬 晃啓・出口 則之

● 設立

2020年1月1日付

横浜大六天道院

● 交代

2020年1月1日付

大阪新淀川道院

小林 美一

法階昇格者

大範士

2019年12月15日付

山本 昭三郎(名古屋東道院)

永田 憲一(山科道院)

西尾 武(寝屋川道院)

川口 宗勇(奈良信貴道院)

竹内 琢磨(美作勝央道院)

白神 三郎(倉敷道院)

渡辺 實(善通寺中央道院)

2019年12月21日付

岡部 好孝(盛岡中部道院)

雨澤 芳利(いわき南道院)

林 昌幸(埼玉早瀬道院)

萩原 俊次(船橋東道院)

渡辺 和夫(調布道院)

足達 靖彦(宇治西道院)

正範士

2019年9月29日付

前川 和也(淡路緑道院)

2019年12月15日付

廣瀬 春雄(上士幌道院)

後藤 久雄(榛南道院)

福田 有希(浜岡道院)

大西 闊男(大塚今切道院)

2019年12月22日付

皆川 英治(東京目黒道院)

准範士

2019年9月29日付

ミグダリスキー・ウラディーミル
(精華道院)

白川 浩寅(広島安佐道院)

2019年12月15日付

中山 俊宏(加賀梯道院)

山本 一成(京都女子大学)

藤村 秀一(福岡小笹道院)

2019年12月22日付

小野 孝志

(鹿島港南スポーツ少年団)

長谷川 浩(常総石下道院)

児島 生昭(前橋中部道院)

樋口 雅人(群馬北毛道院)

丹羽 良貴(東京目黒道院)

出口 則之(町田南道院)

お布施

道院設立40周年記念

各務原東道院 青山 昌伸 30,000円

道院設立20周年記念

▷三重津東道院 濱崎 哲也 50,000円

教職員旅行

▷京都学園教職員一同 50,000円

布施

▷柚木 佐知子 50,000円

▷水戸葵道院 鈴木 裕 50,000円

▷滋賀瀬田道院 30,000円

▷豊田末野原道院 服部 俊美(10、12月) 各10,000円

▷浅草蔵前道院 安藤 良丸 10,000円

▷児島西道院 10,000円

公認講習会

▷北海道教区 30,000円

▷栃木県教区 30,000円

▷愛知県教区 30,000円

▷徳島県教区 30,000円

▷福岡県教区 30,000円

▷九州地方教区 30,000円

訃報

佐藤 美津男 広島東道院道院長、258期生、中導師准範士六段、2019年9月22日逝去、満65歳

神保 昭人 泉州尾崎道院元道院長、164期生、中導師正範士七段、2019年9月29日逝去、満76歳

浅沼 幹彦 宮城利府道院道院長、404期生、大導師正範士七段、2019年11月5日逝去、満63歳

◆ 師家承継式におけるご芳志録について

本来であれば、本誌面に掲載させていただくところですが、誌面の都合上、すべての方を掲載することができません。つきましては、金剛禅サイトに掲載させていただきますので、下記URLよりご確認くださいませようお願いいたします。

https://www.shorinjikempo.or.jp/religious/congregation_news/202001



編集後記▶この原稿を書いている現在、新型コロナウイルスによる肺炎は、感染者がまだ増え続けています。少林寺拳法グループの予定行事にも一部影響が出ています。手洗いや消毒、マスクや周りへの気配りなど、一人一人の心がけが、まずは一番の予防対策であることを改めて実感します。人類は、こうした出来事に直面しながら、それを防いだり、乗り越えたりする知恵や力を得てきました。この号が発刊されるころには、感染も一段落していることを願うばかりです。▼一方、開祖以来の金剛禅運動の志は、もっともっと人から人へと伝染し、広まってほしいものです。承継式で新師家は、「この運動を止めてはなりません。道をゆがめてはなりません。そして、これからも正しく導かねばなりません」と、力強く決意を語られました。共に止まることなく、この道を伝え広めていきましょう。(さ)

表紙

本誌表紙は毎月「ダーマ」をテーマとしておりますが、今号は師家承継式を特集する号のため、本山の風景を掲載しております。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
管長法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。



2020年3月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：大澤 隆

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：坂下 充

印刷・製本：株式会社ムレコミュニケーションズ

広報誌「あ・うん」追加発送について ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数に応じて10～20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎月ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山市教課にお申し出ください(追加1部につき50円・送料別途要)。

TEL.0877-33-1010

e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト／大原由軌子

やまなしももと さと かわうえ さとる
山梨桃の里道院 川植 悟

私の少林寺拳法人生これから！

小学5年生のころ、父に連れられて道院に行きました。一目見ておもしろそう！と入門を決意、あつという間に少林寺拳法の魅力に取り憑かれ週4回道院に通っていました。惹き付けられた魅力は「教え」です。「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」「力なき正義は無力なり、正義なき力は暴力なり」。これらは、当時何となく、「悪いことがかっこいい」と思っており、担任の先生に「手が付けられない」と太鼓判を押されるほどひねくれている私に、「正しいことは正しいと堂々と行えるカッコよさ」のようなものを感じさせ、技法と相まってすんなり入ってきました。

以来、中・高・大とのめり込み、大学卒業後には、専門学校禅林学園専門部に入学しました。禅林学園でより深く技法・教義を学び、子どもころに感じていた少林寺拳法の教えの魅力を正しく再認識することができました。中でも、ダーマの「時間と空間を超越して、存在する大引力」という言葉が印象的でした。もしもあのとき、父が道院に連れていってくれなかったら。もし、道院長に出会っていなかったら。もし、始めるのが3年遅かったら。もし、途中でやめていたら……。さまざまな偶然の中、恐らく何か一つでも違っていたら、私は今、ここにはいないでしょう。そう考えると、25年間少林寺拳法を続けさせてくれた出会い(ダーマの働き)に感謝せずにはいられません。さてその後、結婚を機に山梨県に移住し、2018年12月、山梨県一宮町で山梨桃の里道院を設立、昨年12月1日に認証、そしてことし1月11日に認証式に出席することができました。奇しくも同日、入門した道院の恩師もまた45周年の表彰を受けられていました。また翌日、1月12日に師家承継式が執り行われました。

自身のだ院認証、恩師の45周年表彰、師家の承継、ここにもまた不思議な法縁を感じずにはいられません。これもダーマのお導き。すべての出会いに感謝し、恩師が開祖や二世師家を支えられてこられたように、今度は微力ながら私が三世師家を支え、少林寺拳法を次の世代へ伝えていこうと決意を新たにしました。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp



宗門の**行**としての少林寺拳法

攻者に対する認識

少林寺拳法は護身の技術という性格上、攻者は守者である自身に危害を与える役と設定し、その認識から修行が始まる。しかしこれは、修行の初歩の段階である。

修行を重ねる中で、攻者は修練における最も重要なパートナーであると認識し、感謝の気持ちを持って修練に取り組めるようになったなら、技量の向上だけでなく、自他共楽の教えもおのずと理解できるようになる。



龍王拳 両手寄抜

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイトで動画をご覧いただけます。

撮影／志村 力 文／中川 純 演武者／中川 純 正範士七段、富田雅志 大拳士六段



SHORINJI KEMPO
少林寺拳法